

主要害虫、まとめて退治。

かんきつの害虫防除に

ロディー[®] 乳剤・水和剤

農林水産省登録第17113号(乳 剤)
農林水産省登録第17116号(水和剤)

ロディーは住友化学(株)の登録商標



ロディーの特長

速効的に作用し、残効に優れる。

広い殺虫スペクトラム。

ハダニのリサージェンスを起こしにくい。

開花期の訪花害虫、シャクトリムシ類を対象とした防除

ロディー乳剤は、開花期の訪花害虫類(コアオハナムグリ、ケシキスイ類)や近年問題化してきているシャクトリムシ類に対して優れた防除効果を示すとともに、同時発生する害虫(チャノキイロアザミウマ、アブラムシ類など)を併殺できます。また、シャクトリムシ類の中老齢幼虫に対しても有効です。



コアオハナムグリ



ヒメヒラタケシキスイ



ヨモギエタシャク

カメムシ類を対象とした防除

カメムシ類はかんきつ園外から長期間にわたり飛来し、果実を加害します。ロディー乳剤は、主要種であるチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシのいずれに対しても効果が高く、接触作用により速効的に殺虫効果を示します。また、残効も長く、長期間吸汁防止効果を示します。



チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ



クサギカメムシ

ロディー剤の特長

1 殺虫スペクトラムが広い

かんきつのミカンハモグリガ、チャノキイロアザミウマ、ミカンハダニ、カメムシ類、アブラムシ類、訪花害虫やシャクトリムシ類などの主要害虫に対して幅広く卓効を示します。(乳剤)

3 残効に優れる

慣行薬剤に比べ、優れた残効性を示しますので、発生期間の長い害虫に対しても高い防除効果が得られます。

2 殺虫力と速効性に優れる

接触作用による強い殺虫力と、極めて速いノックダウン効果を示すため、速やかに作物の被害拡大を防ぎます。

4 ハダニのリサージェンスが起こりにくい

ハダニ類に対して殺ダニ効果を示します。みかん園で問題となっているハダニのリサージェンス現象(殺虫剤の散布によりハダニ類が増殖する現象)が起こりにくい殺虫剤です。

適用害虫と使用方法(抜粋)

● 乳 剤

| 作物名 | 適用害虫名 | 希釈倍数(倍) | 使用液量 | 使用時期 | 本剤及び フェンプロパトリンを含む 農薬の総使用回数 | 使用方法 |
|------|--|---------|------------------|-------------|---|------|
| かんきつ | アケビコノハ、ヒメエグリバ ミカンハモグリガ チャノキイロアザミウマ カメムシ類、アブラムシ類 ケシキスイ類 ミカンハダニ コアオハナムグリ ミドリヒメヨコバイ シャクトリムシ類 ハマキムシ類 カネタタキ ケムシ類 | 2000 | 200~700 ℓ/10a | 収穫7日前 まで | 本剤:4回以内 フェンプロパトリン:9回以内 (噴射は5回以内、 散布及びくん煙は 合計4回以内) | 散布 |

● 水和剤

| | | | | | | |
|------|----------------|-------------------|------------------|-------------|---|----|
| かんきつ | アブラムシ類 ミノガ類 | 1000 ~ 2000 | 200~700 ℓ/10a | 収穫7日前 まで | 本剤:4回以内 フェンプロパトリン:9回以内 (噴射は5回以内、 散布及びくん煙は 合計4回以内) | 散布 |
| | チャノキイロアザミウマ | 2000 | | | | |
| | ハスモンヨトウ | 1000 | | | | |

ロディーは下記の作物にも登録があります。

(乳 剤)茶、もも、マンゴー、なす、トマト、いちご、ピーマン、しとう、すいか、きゅうり、メロン、かぼちゃ、あずき、花き類・観葉植物(水和剤)りんご、なし、ぶどう、もも、すもも、びわ、かき、おうとう、うめ

上手な使い方

適期散布を行ってください。

殺虫効果のみならず、被害防止効果にも優れています。残効性と忌避作用を活かして害虫発生初期の防除を行うとより効果的です。

数種の害虫の併殺をねらってください。

殺虫スペクトラムが広いので、同時に発生している害虫を1回の散布で併殺することができます。多種類の害虫が混発するかんきつの防除に威力を発揮します。

均一散布を行ってください。

浸透移行性やガス効果がないため、薬液のかかりにくい葉裏、下葉などにもむらなく散布するよう心がけてください。

連用はさけてください。

ピレスロイド剤の過度の連用はさけ、各地域の防除基準や防除暦に沿って有機りん剤やカーバメート剤等、殺虫機作の異なる薬剤との体系防除を行ってください。

△ 使用上の注意事項(抜粋)

- ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合してください。
- ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、本剤の連続使用はさけ、作用性の異なる他の殺ダニ剤と輪番で使用してください。また、本剤の年間使用回数もできるだけ少なくするよう努めてください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 摘果等の作業の際は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にからないようにしてください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさせてください。
 - ③関係機関(都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 蚕に長期間毒性があるので、付近に桑園のあるところでは使用しないでください。
- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
養殖池周辺での使用はさせてください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。